

シーニックバイウェイ指定の審議

1. 推進協議会構成機関からの意見

① 函館・大沼・噴火湾ルート	
A	<p>・函館が行き止まりなので函館へ向かうR5かR278を中心としたルートとなりますが、ルート内そのものには、様々な歴史と文化などの資源はあるようです。</p> <p>・全体的な指定ルートのバランスを考えた場合、R278の海岸ルートの自然景観と魅力を感じるような景観づくりに地域住民が参加して連携がとれているという活動団体が少ない気がする。</p> <p>・R5についていえば、赤松街道への入り口は、流れに沿って走ると自然にバイパスへ入っていくので誘導できるポイントが必要と思われる。</p>
B	<p>・当該ルートのある渡島地域は、大沼国定公園や道立自然公園をはじめ風光明媚な自然環境に恵まれ、全国的にも有名な函館などの観光スポットがあり、北海道の中でも他の地域とは異なる気候風土や歴史・文化をもつ観光圏を形成しており、シーニックバイウェイルート指定にされることにより、地域の魅力の向上や地域の活性化が一層図られることが期待できる。</p> <p>・また、道南地域においては今回ルート提案のあった市町村以外にも景観等に恵まれた地域があるので、今後ルートの拡大などにより、さらなる魅力の向上が図られることも期待したい。</p>

② 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	
A	<p>・各地域美化運動がしっかり行われ景観に対する取組みがよい。</p> <p>・特に広大な自然景観は、北海道らしさがあり、観光ブランドは申し分のないルートです。周遊性が高まるよう、更なる、活発な地域活動を期待します。</p>
B	<p>・当該ルートのある釧路・根室地域は、阿寒湖、摩周湖、屈斜路湖といった著名な湖を擁する阿寒国立公園、ラムサール条約登録湿地であり貴重な動植物を育む釧路湿原国立公園や自然公園といった道内有数の豊かな自然環境が恵まれた地域であり、シーニックバイウェイルート指定されることにより、地域の魅力の向上や地域の活性化が一層図られることが期待できる。</p> <p>・また、釧路・根室地域においては今回ルート提案のあった市町村以外にも景観等に恵まれた地域があるので、今後ルートの拡大などにより、さらなる魅力の向上が図られることも期待したい。</p>
C	<p>・計画の作成に当たっては、国立公園等における行為規制や公園事業等の内容も念頭においてくださるようお願いします。</p> <p>・また、表示されている観光資源等の他に「塘路湖エコミュージアムセンター」、「釧路湿原野生生物保護センター」及び「コッタロ展望台」があります。</p>

第3回シーニックバイウェイルート指定について（案）

平成18年11月13日

シーニックバイウェイ北海道推進協議会

シーニックバイウェイ北海道実施要綱第十八条第一項及び第二項の規定に基づき、次の通りシーニックバイウェイルート指定を行う。

名 称：函館・大沼・噴火湾ルート

ルート：函館市、北斗市、七飯町、鹿部町、森町、八雲町

提案者：函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議

名 称：釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

ルート：釧路市、鶴居村、弟子屈町、標茶町、別海町、中標津町

提案者：釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイルート運営代表者会議

なお、上記指定を行うにあたって、別紙の通り意見を付記する。

■シーニックバイウェイルート

◆シーニックバイウェイルート全体に対する意見

候補ルート期間内に深めた活動の連携と質の向上をこれからも継続させ、力強い地域の一体感の醸成を進められたい。

道外、国外の地域づくりの事例を踏まえると成功のポイントは、「自主性」「挑戦」「活動のネットワーク」「人材育成」「住民との連携」など挙げられる。これらに留意しつつ、地域に合ったスピードで具体的な活動を展開していくとともに、今後の活動が地域全体の活動となっていくことが望ましい。

特にルート内における景観、自然、歴史、文化、レクリエーション資源などの地域資源の保全・改善のための活動を総合的に実施し、質の高い旅行空間の形成を目指しルートを運営するにあたり、以下の点に留意しつつ進められたい。

- ・地域特性の活用：北海道特有の気候風土を生かし、常に新しいものの追加、物語性の充実、国際競争力の強化を進め、通年性、持続性を確保
- ・景観への取り組み：景観意識の向上、景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出
- ・自然に与えられた景観の活用に加え、まちなかの建物・看板等の規制や指導などの検討
- ・既存観光地からの脱却を目指し、歴史文化資源の活用、食文化、レクリエーション資源など幅広く地域の個性を生かした地域主導型の新たなツーリズムの展開や個人型旅行の促進・対応に向けた取り組みの実施
- ・持続性の確保：参加する各主体（国、道、市町村、活動団体、住民）による持続的な責任ある行動とその活動や成果に対する外部評価やアドバイザーの採用
- ・ホスピタリティ向上：研修プログラムの実施、地域での多様な人材育成
- ・全国・世界への情報発信、旅行会社等民間企業との連携
- ・開かれた運営体制：継続的な参加者の募集、地域住民やコミュニティとの連携・協働

◇ 函館・大沼・噴火湾ルート

景観資源、歴史的資源、自然資源は魅力的な資源と言えるが、人々が生活する場の景観の改善や、各資源の融合、組み立てによるブランド化に向けた取組を期待したい。

ホスピタリティ向上や適切な案内等、来訪者をお迎えする「おもてなし」について、具体的に活動計画に反映されたい。

活動団体同士や行政、企業やNPO、地域住民等、多種多様な主体の参加・協働をルートの拡大も念頭におき一層進めるとともに、広域的な連携を行うにあたり、「人材育成」について体制の強化が必要である。

◇ 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

4エリアにおける資源性は申し分ないが、資源価値が高すぎる上での課題がある。

自然資源の保護・調和、市街地部とその周辺の近景・中景の景観の改善等に取り組んでいく必要がある。

アイヌ文化など、当該地域のもつ神秘性のある歴史・文化・自然を活用した演出など、新しい取り組みにも期待したい。

特にエリアが広大であることから、活動団体同士や行政、地域住民等と一層連携した取り組みが必要であるとともに、機動力のある十分な体制の運営が必要である。